

# 令和4年度 第2回岡谷市基本構想審議会 ～委員からの質問・意見に対する回答～

## 2-2 高齢者福祉の推進

目標値16.35は実質的にとても無理と思われるのですが、どうでしょうか。

### 【岡谷市の回答（介護福祉課）】

令和3年度の要介護認定率は、17.49%で前年度より0.41ポイント上昇していますが、要支援と要介護に分けて検証すると、令和3年度の要支援者は723人、前年度より5.5%（38人）増、要介護者は2,142人、前年度より0.4%（8人）の増であり、要介護者の伸び率に比べ、自立に近い状態の要支援者の伸び率の方が大きいことから、一定の成果があったと考えています。

諏訪広域連合第7期介護保険事業計画では、本市の要介護認定率は2023（令和5）年に20.3%まで上昇すると推計しており、計画期間中、介護予防等を推進することで、目標数値である16.35%に抑制することを目指してきました。

要介護認定率は65歳以上である第1号被保険者のうち、第1号被保険者の要介護（要支援）認定者が占める割合になります。この65歳以上の第1号被保険者数は、令和3年度が16,385人、前年度より122人減少し、毎年、減少傾向が続いていることが、要介護認定率の上昇に影響しているものと考えられます。

現在、要介護認定率は、目標値を大きく上回っており、認定率の増加は今後も続くものと見込まれています。引き続き、高齢者の運動習慣の割合や介護予防事業などへの参加率を上げるため、地域包括的支援事業及び介護予防事業の対象者層に応じた情報発信や普及活動を推進するなどして、要介護認定率の抑制に繋がるよう努めてまいります。

また、第5次岡谷市総合計画 後期基本計画の策定において、近年の状況を踏まえ、目標指標の見直しを行ってまいりたいと考えております。

## 4-1 学校教育の推進

祖父母の介護のため、学校を休んでいる子どもさんがいるという情報がありますが、実態を把握していますか。また、その対策は。

### 【岡谷市の回答（教育総務課）】

家族の介護や家事などを日常的に行っていることにより、学校に行くことができなかつたり、勉強に支障が生じるなどの影響を受けている18歳未満の子どものことを「ヤングケアラー」と言います。

ヤングケアラーは、2年程前から注目されてきましたが、家庭内のデリケートな問題のため表面化しにくく、周囲の大人や本人でさえ自覚のない場合が多いなど、把握の難しさもあり、適切な支援に結びついていないなどが課題とされています。

何らかの理由により、学校に登校できない子どもは、市内の小中学校に数名在籍していますが、本人や家庭の問題など、様々な課題を抱えているケースがあります。不登校の子どもたちに関しては、学校と市の子ども総合相談センターの専門家等が関わりながら、環境改善に向けたサポートを行っており、家族の介護などの課題を抱えている場合は、市の福祉部門と連携して丁寧な対応に努めております。

ヤングケアラーの問題は、最近の課題であり、現時点で市内の実態把握はできておりませんが、長野県では、昨年度において高校生対象の調査を初めて行い、本年度は県による小中学校対象の調査が行われる予定のため、その結果により実態が明らかになると考えています。

また、子どもたちが家庭の手伝いをする事自体は決して悪いことではありませんが、子どもたちの心や体、学習や生活に悪影響を及ぼしている状態は改善する必要があります。

市教育委員会では、学校の先生方が子どもたちの普段と違う様子などのサインに気が付くことができるよう、専門家による教員研修を重ねており、子どもたち自身も悩みや困ったことがあれば周りの大人や友達にSOSを出せる力を養えるよう「SOSの出し方に関する教育」などの対策を行っております。